

## 要求水準書作成指針（案）のポイントと構成

### 要求水準書作成指針(案)のポイント

- 1 より明確に、より具体的に、合目的的に柔軟に、要求水準書を作成するノウハウを提示
  - 2 作成の考え方を示すとともに、チェックリスト等を実践編として提示
- ➔ PFIノウハウの十分でない管理者等がすぐに使えるものとして取りまとめ

### 要求水準書作成指針(案)の構成

理論編

- 序 要求水準書作成指針の位置づけ
- I PFIのプロセスからみた要求水準書の位置づけ
- II 要求水準書に求められるもの
- III 要求水準書に関する諸課題と対応の方向性
  - 1 管理者等の意図の明確化
  - 2 要求水準の具体化、明確化、精緻化
    - 2-1 要求水準の明確化
    - 2-2 達成すべき基準の明確化
    - 2-3 要求水準・モニタリング・支払メカニズムの三位一体の検討
  - 3 その他の課題
- IV 地球温暖化対策の観点から求められること

実践編

- V 要求水準書の構成
- VI 要求水準書の作成プロセス

### 実務で活用するチェックリスト

確認時期	大項目	チェック項目	備考
導入可能性調査前	事業コンセプトの明確化	<input type="checkbox"/> 事業コンセプト(管理者等の政策目的や求める成果(アウトカム))を明確化している。	
		<input type="checkbox"/> 事業コンセプトを明確化し、それを配布することなどにより、管理者等の内部で認識を共有している。	
		(中略)	
導入可能性調査	事業の優先順位の評価	<input type="checkbox"/> 納税者の視点から、事業の優先順位について検討している。	
	検討体制の確保	<input type="checkbox"/> 当該分野で要求水準を作成するノウハウを有するアドバイザーに導入可能性調査を委託している。	
		<input type="checkbox"/> 必要に応じて、庁内の検討にかかわるスタッフを増やしている。	

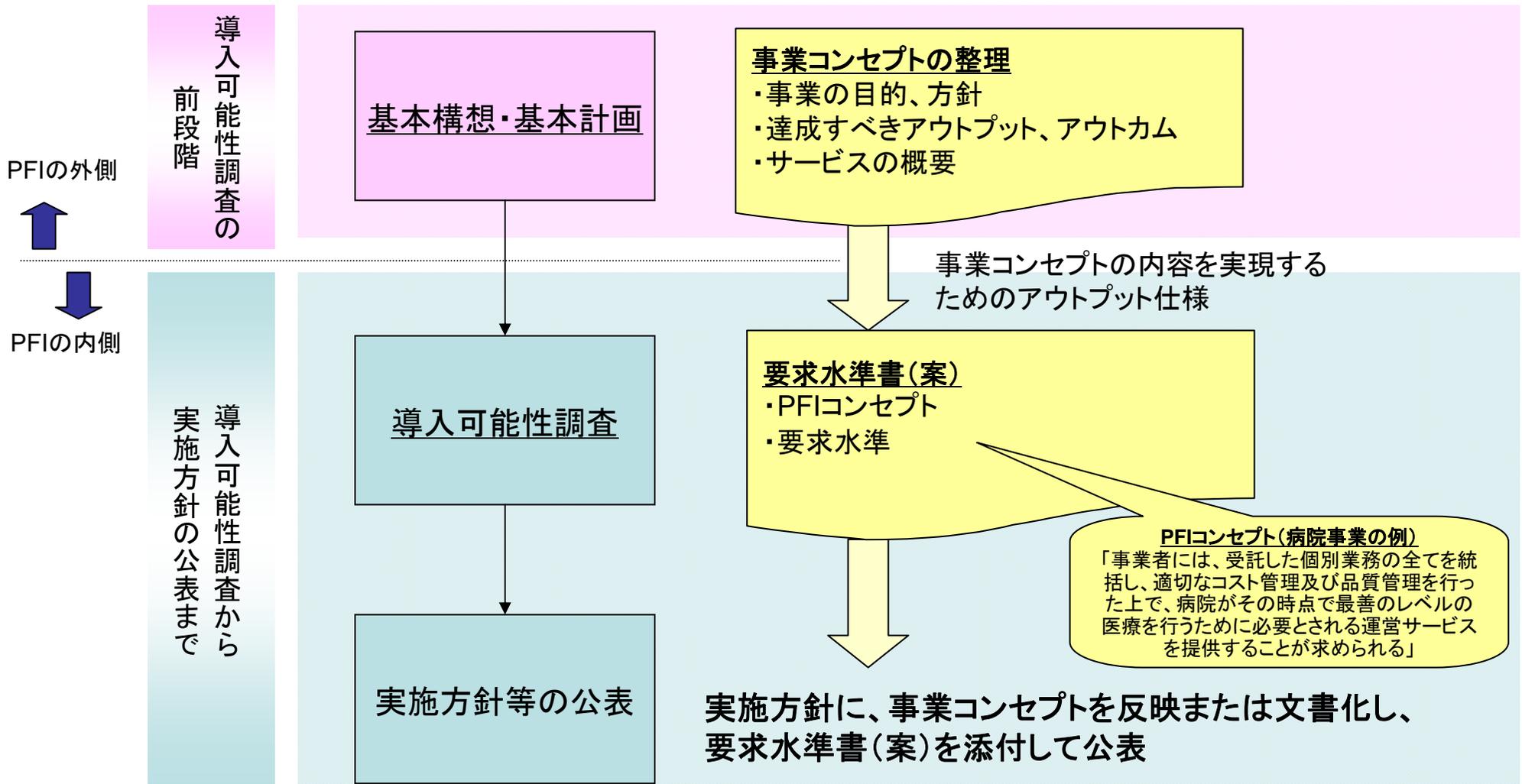
# 1. 管理者等の意図の明確化

**課題**  
管理者等が何を求めているのか明確に整理しきれていない

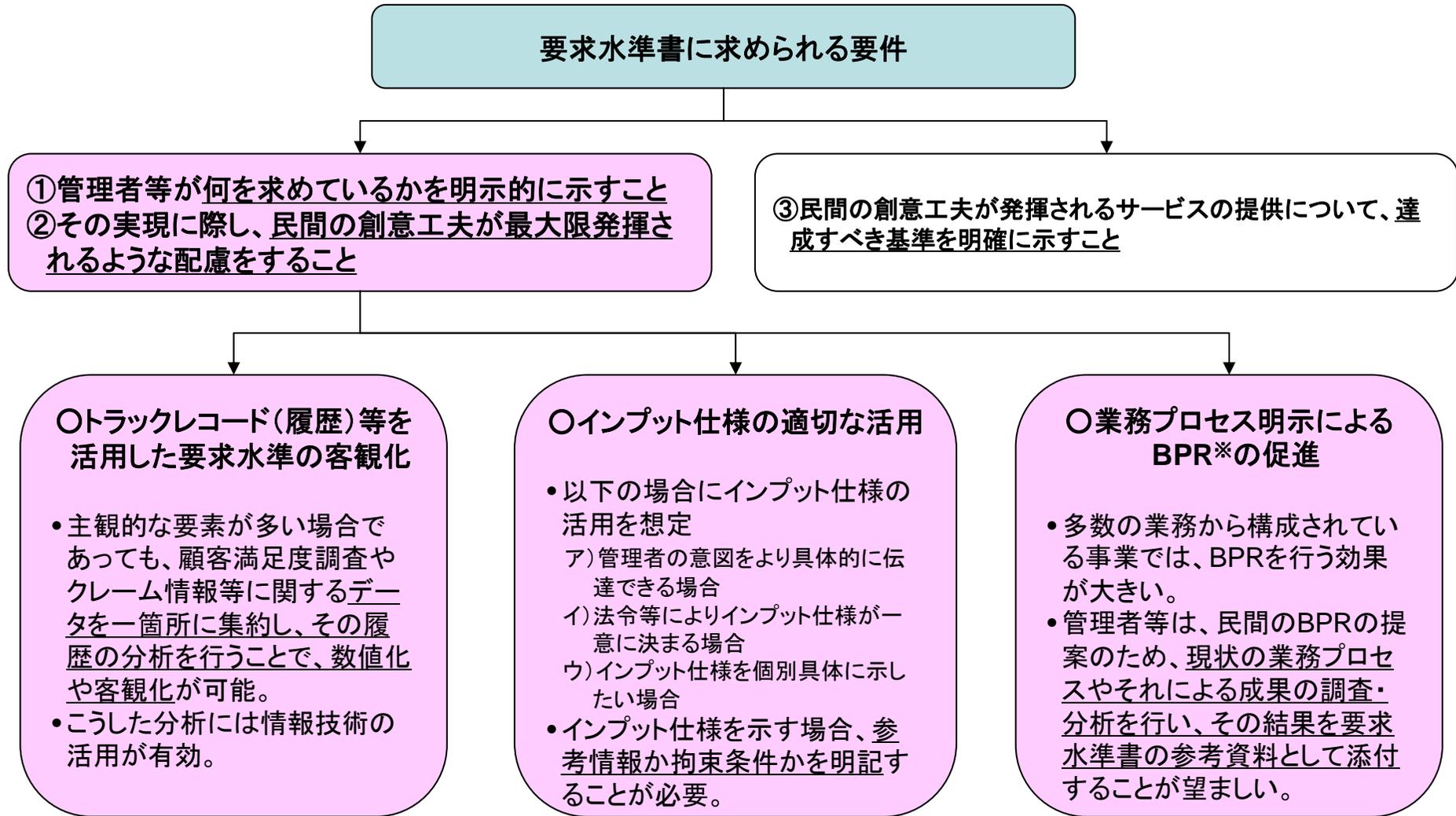
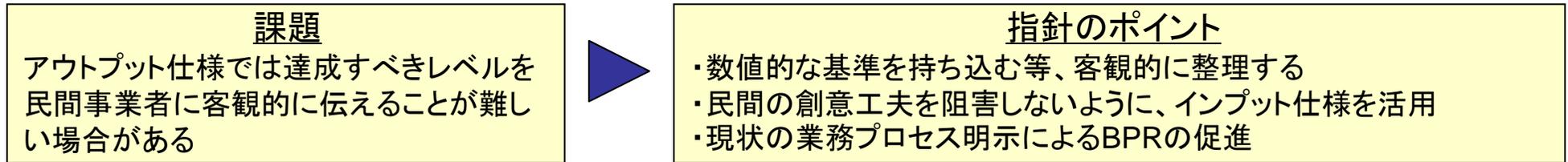


**指針のポイント**  
・PFI検討の前段階で、事業コンセプト(事業の目的等)を明確化  
・導入可能性調査段階で、PFIコンセプト(PFIを実施するにあたり管理者等が特に何を期待しているのか)の明確化

## 事業コンセプト、PFIコンセプトを検討する段階

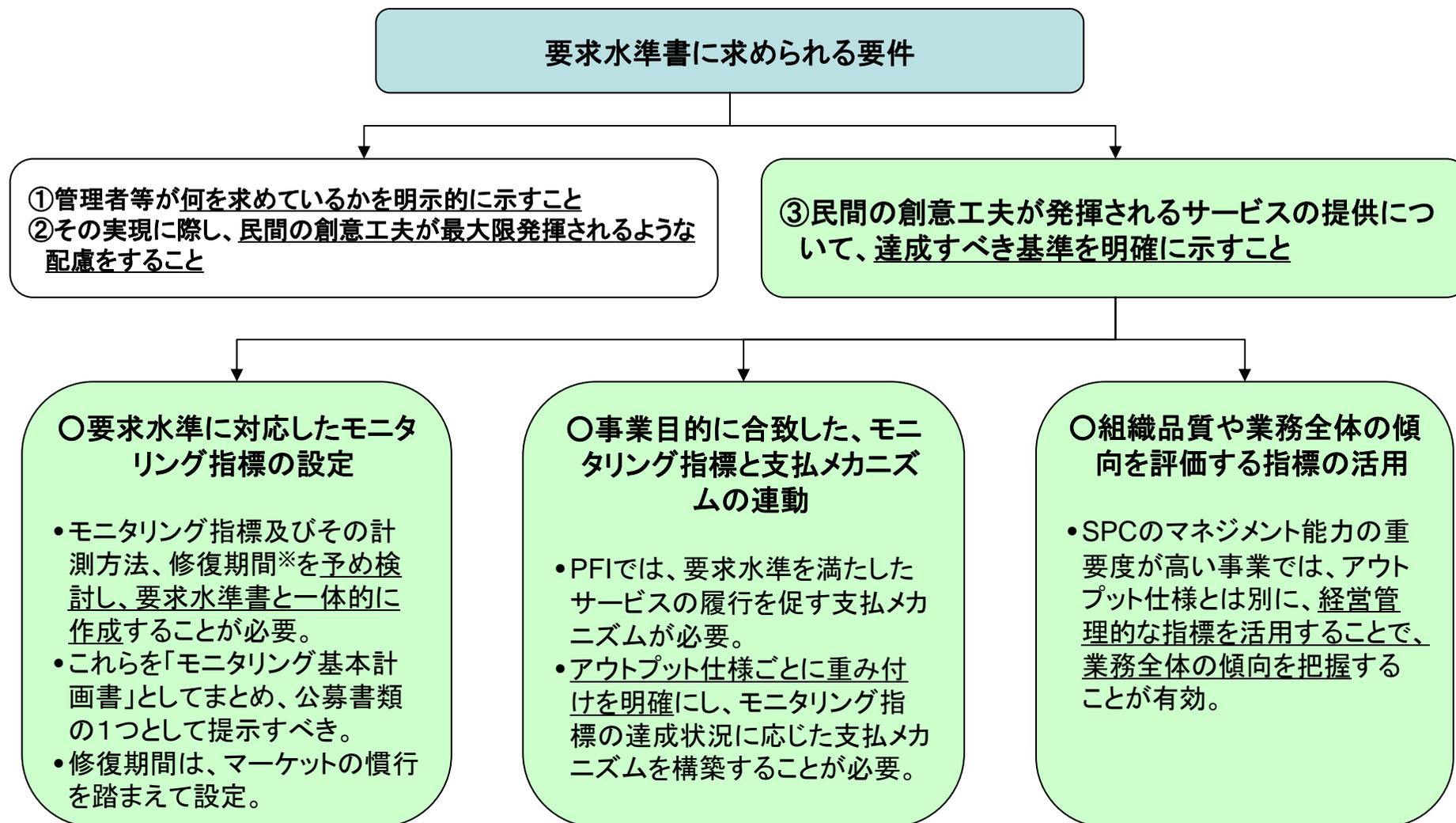
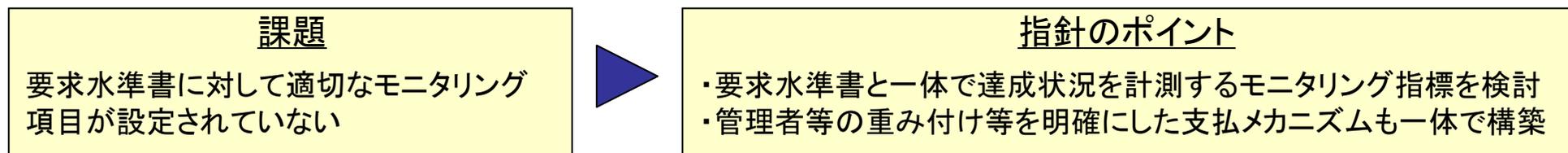


## 2-1. 要求水準の明確化



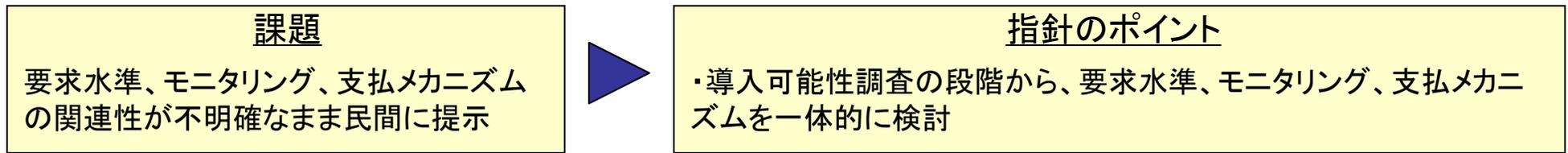
※BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング): 現状の業務プロセスの再編・再構築

## 2-2. 達成すべき基準の明確化

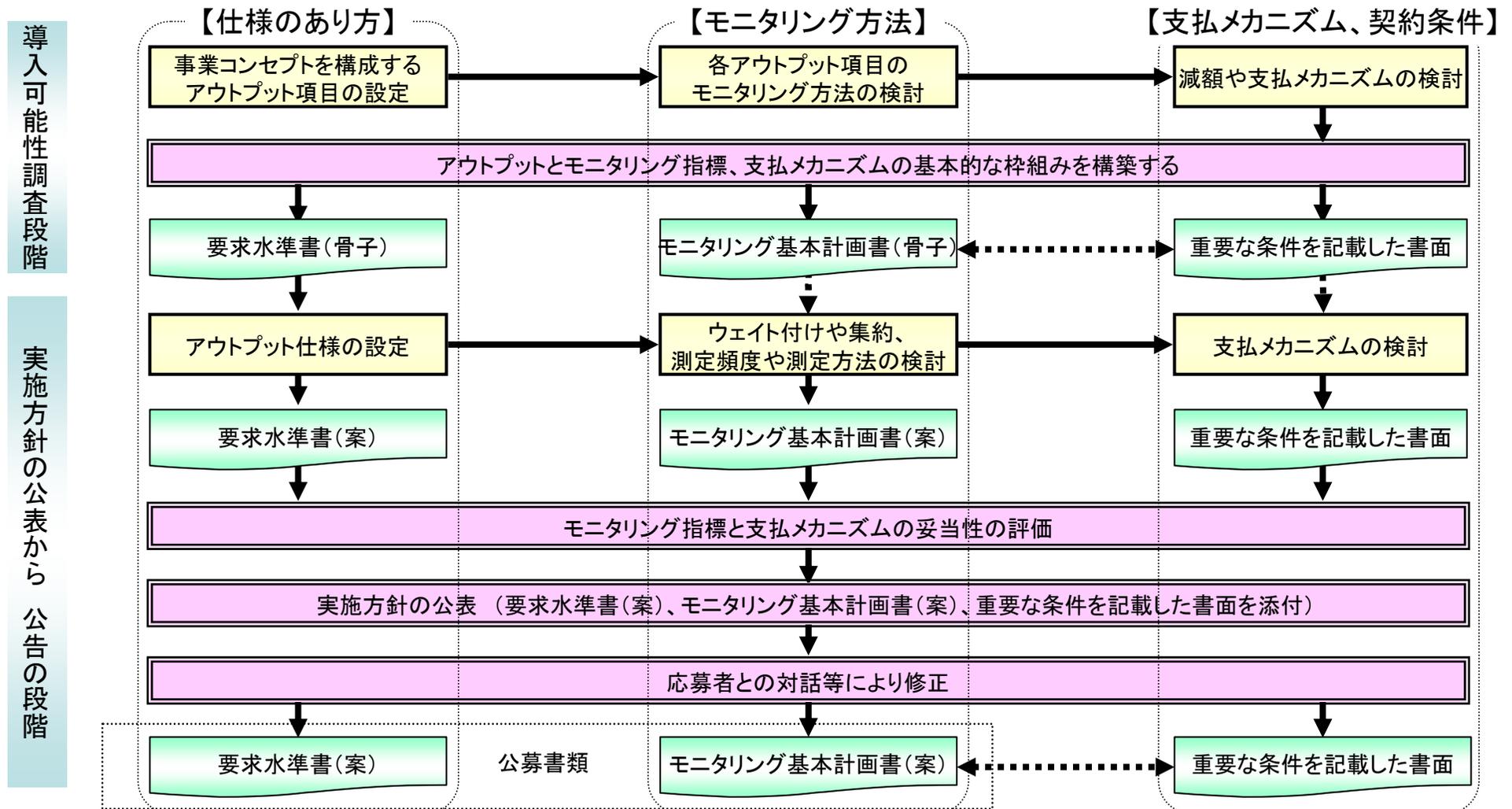


※修復期間:この期間内にサービスが修復された場合はペナルティの対象外とする

## 2-3. 三位一体の検討プロセス



### 要求水準、モニタリング指標、支払メカニズムの三位一体の検討フローの例



# 地球温暖化の防止

## 課題

設計、建設や運営段階で、省エネルギーを促進する仕組みが構築されていない



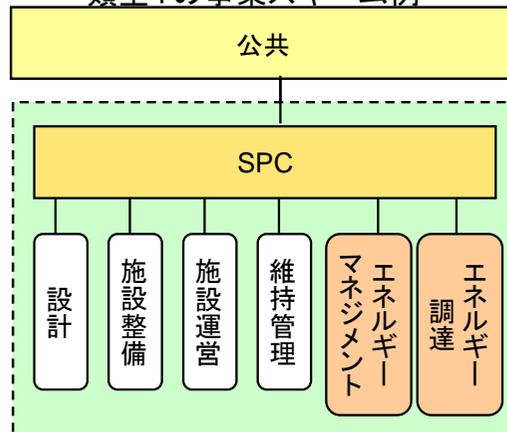
## 指針のポイント

・民間の創意工夫を発揮しやすく経済原理に基づいて省エネルギー（CO2排出量の削減）が達成されるように配慮する。具体的には、光熱水費をPFI-LCCに含めることが有効。

## エネルギーに関する役割分担と省エネルギーの評価

事業類型	エネルギーに関する役割分担		省エネルギーの観点からの評価
	光熱水費負担 (エネルギー調達)	エネルギーマネジメント	
類型1	民間事業者	民間事業者	エネルギーに関して設計から運営・維持管理までを一貫して最適化することが可能となり、割高な省エネルギー施設の導入や運営段階のエネルギーマネジメントが期待。
類型2	管理者等	民間事業者	光熱水費をPFI-LCCに含めることが困難な場合は、エネルギーマネジメントを民間事業者の業務範囲として位置づけることで、省エネルギーに対するインセンティブとすることが可能。
類型3	管理者等	管理者等	望ましくない(光熱水費削減のインセンティブが働かず、結果として省エネルギーが進まない)

類型1の事業スキーム例



類型2の事業スキーム例

